

発行所／株式会社BCN
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-12-5 内山ビル
TEL：03-3254-7801 FAX：03-3254-7808
比世間(上海)信息諮詢有限公司／商業計算機新聞社 上海支局
〒200040 中国上海市静安区延安中路1440号 阿波羅大廈617室
週刊(毎週月曜日発行) ©BCN2018
昭和57(1982)年12月13日第3種郵便物認可
印刷・製本／株式会社広英社印刷

購読のお申し込み
TEL 03-3254-7801 FAX 03-3254-7808
MAIL sub@bcn.co.jp
年間購読料：15,000円＋税 1部：330円＋税
郵便振替口座：0018-4-108217

週刊BCN

Weekly Business Computer News

2018.8.27^{MON}
vol.1740 第2部
<https://www.weeklybcn.com/>

徹底

ネットワークは開拓者だ！

分析

本多編集長が
今、いちばん気になる

「パートナーシップ」



SSDを
ハードディスクの
半額で!

HPE SimpliVity オールフラッシュ・ハイパーコンバインド体感キャンペーン

XS	HPE SimpliVity 380 Gen10 XS 2ノード	55% OFF	S	HPE SimpliVity 380 Gen10 S 2ノード	57% OFF
プロセッサ	インテル® Xeon® Silver 4108 プロセッサ (8コア/1.80GHz)		プロセッサ	インテル® Xeon® Gold 6130 プロセッサ (16コア/2.10GHz)	
メモリ	144GB		メモリ	240GB	
内蔵ストレージ	オールフラッシュSSD (960GB×5)		内蔵ストレージ	オールフラッシュSSD (1.92TB×5)	
保守・サービス	3年24×7保守、HW/SWスタートアップサービス込み		保守・サービス	3年24×7保守、HW/SWスタートアップサービス込み	
希望小売価格	11,193,400円 (税抜)		希望小売価格	16,895,800円 (税抜)	
	5,038,000円 (税抜)	実効容量 約5TB		7,339,000円 (税抜)	実効容量 約10TB

さらにSimpliVity関連オプションも大幅値引き！ 2018年5月17日(木)～2018年10月31日(水) お申し込み分まで

DRサイトに振り分けるケースが増えると思う」とネットワークの片山係長。この強力な重複排除やデータ圧縮機能は、リストア処理でも有効に作用する。

一般にバックアップはネットワークや容量の問題から、業務終了後の夜間に行われる。そのためデータロスした時に戻せるのは1日前のデータになるが、現実では直前まで作業していたデータを戻したいという声が圧倒的だ。

HPEの小川氏は、「HPE SimpliVityのインテリジェントストレージはバックアップ中も性能が落ちない画期的な仕様なので、お客様には10分か20分毎に全ての仮想マシンを丸々バックアップすることをお勧めしている」という。「それでも容量を圧迫せず、リストアも一瞬だ。それを体験したお客様からは感激したという声をいただいている」とアピールする。

さまざまなインフラ機能を標準装備
柔軟な拡張性が提案の幅を広げる

HPE SimpliVityは、バックアップやBC/DR対策に必要な機能が標準で備わっている。従来のHCI製品ではサードパーティーの外部バックアップ装置やバックアップツール、DRを行うのであればWAN回線の圧縮転送装置なども必要になるが、HPE SimpliVityではこれらについて専用装置やソフトウェアを追加購入する必要がない。このため導入コストや運用管理コスト、設置スペース、消費電力などさまざまな点でTCOを大幅削減できる。拡張性においても、最小構成の2ノード構成では高価な10Gスイッチは必要なく、そこ

から最大32ノードまで無停止でシームレスにスケールアウトすることができる。また、重複排除効果でストレージ容量に余裕がありつつも、コンピュータリソースが不足しているような場合は一般的なx86サーバーをコンピュータノードとして継ぎ足せる機能があり、これによってCPUやメモリーリソースの不足を非常に安価に補うことができる。

「拡張時の選択肢が様々あるのは、スモールスタートや小規模のお客様に特に受けがいい」とHPEの小川氏。ネットワークの片山係長も、「最小の2ノード構成でも信頼性は最高レベル。しかも、コンピュータリソースだけを追加できる機能は珍しく、提案の幅もかなり広がる」と評価する。

さらに近々、「Nimble Storage」で大人気のクラウドベースの運用・監視機能「InfoSight」がHPE SimpliVityにも対応する予定だ。これにより製品の信頼性をさらに高め、ユーザーの運用負荷を大幅に軽減することが可能になる。

HPEの小川氏は、「ネットワークのストレージに対する技術力・検証内容は、われわれの期待値を常に上回っている」と力を込めて語る。「Nimble Storageを早くから取り扱い、HPE SimpliVityに組み合わせたサーバー、ストレージ、ネットワークの3層構造での販売もできる。また、InfoSightにも高い見識を持っている。HPE製品の品揃えと、ネットワークの高い技術を活かした組み合わせによるソリューション提案でも、ぜひ、アグレッシブに取り組んでくれることを期待している」。

編集長の眼

HCI市場は、市場の立ち上げをけん引したバイオニア企業が大きな存在感を保ち続けている一方で、後発ベンダーも急速にビジネスを成長させており、サーバーメーカーやストレージメーカーを巻き込んで、まさに「活況を呈している」といっていい状況だ。用途もさまざまなに広がってきている。グローバルでトップベンダーの一社だったシンプリビティも、日本市場についてはHPE傘下入り後の参入となり最後発に近い。それでも、HPEの体力とパートナーエコシステムを

フルに生かした販売体制で、国内の有カパートナーが積極的に顧客に提案している印象だ。ネットワークはその一社であるわけだが、「主要HCI製品は全て取り扱う体制を整える」という方針に、VAD（付加価値ディストリビューター）としてのプライドと食欲が滲む。ニュートラルな立場で目利きをしてくれる、技術力のあるパートナーがいてこそ、鎬を削る各ベンダーの固有の価値が正しくユーザーに伝わり、HCI市場の基盤は強固になっていくのだろう。

インテリジェント ストレージを備えた 次世代型HCI

徹底

分析

ネットワークは開拓者だ！

本多編集長が
今、いちばん気になる

HCI



「HPE SimpliVity」は、専用ハードウェアアクセラレーターによる高速データ処理と管理のシンプルさ、エンタープライズ環境での利用を考慮した冗長性の高い設計を特徴とする次世代型HCI製品。日本ヒューレット・パカード (HPE) が国内販売を開始したのは2017年6月と後発ながらも、爆発的に販売を拡大している。HPE、そしてディストリビューターとして主要なHCI製品を全て扱ってきたネットワークにあらためて「HPE SimpliVity」の魅力について語ってもらった。

VMwareの管理画面で
全て操作できるHCI

「われわれのHCI製品に対するスタンスは、主要製品の全てのラインアップを取り揃えることだ。その意味からも、HPE SimpliVityのような魅力的な製品を扱わないことは考えられなかった」とネットワークの片山大悟・SI技術本部ストレージ基盤技術部ストレージソリューション1課係長は強調する。

もともと米シンプリビティは海外HCI市場でリーディングカンパニーとして認められるほどで、多数の導入実績もある。さらにHPEによる買収で魅力を増したHPE SimpliVityは、ネットワークのHCIラインアップに欠かすことのできない製品だったという。

米ヒューレット・パカード・エンタープライズ (HPE) は、17年1月に米シンプリビティを買収。6月より日本国内でも販売が開始され、今年5月にはマイクロソフトの「Hyper-V」にも対応し、ユーザーの選択の幅が広がった。

ネットワークでも、顧客からの問い合わせは確実に増えており、他のHCI製品と比較した優位性について聞かれるという。

片山係長はHPE SimpliVityの魅力を、「技術面では、特にGUIが完全に『VMware vCenter』の管理コンソールに統合されている点の評価している。VMwareを単体で扱ってきたユーザーは運用管理で一切、戸惑うことがない」と説明する。

従来のHCI製品とは違い、HPE SimpliVityの管理ツールは、専用のアプリケーションを必要とせず、vCenterにプラグインを追加する方式で管理される。そのためHPE

SimpliVityの導入にあたってかねてからのVMwareユーザーは、慣れ親しんだvCenterからHCI全体の管理やバックアップ、クローンの作成、スナップショットなどの操作をクリック一つで行うことができる。

多重障害にも対応
データロスのリスクを最小化

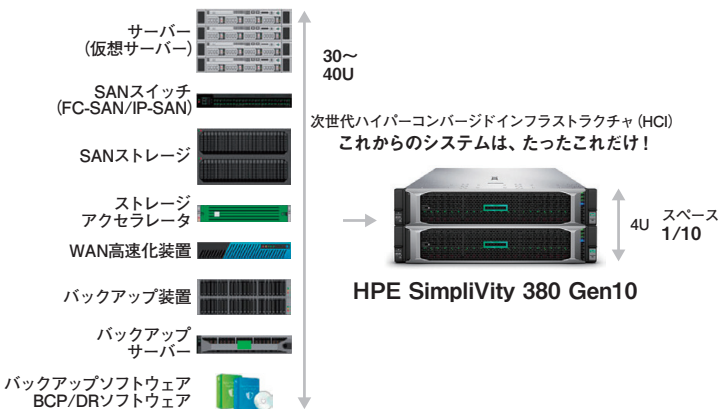
「SimpliVityの先進性は販売前からの予想どおりであったが、データの壊れにくさという当たり前のことを評価いただく声が多いことに驚いている」とHPEの小川大地・テクノロジーエバンジェリストは語る。

単体のストレージ製品ではエントリーからハイエンドまでいくつかのグレードがラインアップされる。しかしながら、HCI製品ではストレージが構成要素の一つであるにもかかわらず、ストレージのグレードが見落とされがちだ。ここにおいてHPE SimpliVityは、価格は抑えつつも他社より高めのグレードのストレージ機能・信頼性を採用している。

「短期間の導入前検証では問題なくとも、数年間実運用すると想定外のトラブルが発生する。その最たる例が多重障害だ。HPE SimpliVityは耐障害性に強く配慮しており、多重障害でもデータを極力ロスしない構造になっている」とアピールする。

HPE SimpliVityは他社HCIと同様にノード間でデータを複製して保持し、ノードの障害時でもサービスを継続できる仕組み (RAIN) を備えつつ、さらにハードウェアRAIDコントローラーでディスク単体の障害もカバーする (RAID)。このRAIDとRAINによる二重保護でデータロスのリスクを最小化できるのだ。さらに表面スキャン (ディスク不良セクタのエラー確認) 機能で障害予兆も高度に行える。「ソフトウェアだけでHCIを実現すると、ミドルクラス以上のストレージなら当たり前の予防機能を搭載できない。HCIはエントリー領域だけでなくミドルレンジ以上の領域での採用も

HPE SimpliVityの構成



HPEブランドで さらに魅力を増した 「Nimble Storage」

徹底

ネットワークは開拓者だ！

分析

本多編集長が
今、いちばん気になる

ストレージ



日本ヒューレット・パッカード (HPE) のオールフラッシュストレージ「HPE Nimble Storage」は、独自ファイルシステム「CASL」や先進の管理機能「InfoSight」を使用することで、低コストながらハイパフォーマンスを実現するミッドレンジ向け製品。2017年11月に米ニンブルストレージがHPE傘下となったことでブランド力も大幅に向上した。「HPEブランドになり、問い合わせは一気に数倍に増えた。今後は、HPE ProLiantとNimble、VMwareに当社の構築サービスを加えた仮想化パッケージの提供も検討している」とネットワークはアピールする。



忍ブルくん

容易な運用、障害を未然検知
管理ツール「InfoSight」

ネットワークがディストリビューターとして正式にNimble Storageの取り扱いを開始したのは16年1月。だが、その数年前より検証機を使った評価を実施するなど、早くからNimble Storageを扱ってきた国内の“老舗”だ。「当社は、数多くのストレージ製品を取り扱っているが、検証機で評価していた当時から、Nimble Storageの扱いやすさは大きな強みだと感じていた」とネットワークの長谷部浩生・SI技術本部ストレージ基盤技術部1課係長は振り返る。

扱いやすさの理由の一つが、製品を構成する部材が少ない点だ。保守における交換部材は、基本的に個々のパーツではなくユニットの交換で対応できるため、スピーディな対応を可能にしている。さらに、クラウドベースの運用・監視機能であるInfoSightの存在が、サポート保守においてHPE Nimble Storageをより魅力的な製品としている。

「キーワードは、IoT、ビッグデータ、AIの三つ。ストレージの運用管理にインテリジェンスをもたらすことができる」と日本HPEの高野勝・ハイブリッドIT事業統括データプラットフォーム統括本部エバンジェリストはアピールする。

HPE Nimble Storageはグローバルで1万社以上のユーザーをもつ。InfoSightは、全世界のNimble Storageの稼働データ（ログ）を、IoT機能により5分ごとに取得してクラウドへ転送・収集している。1日当たり3000万を超えるビッグデータはAI機能によって顧客ごとに集計・分析し、レポートとして提供してくれる。

「InfoSightはモニタリング機能も充実し、しっかりと可視化されている。例えば、遅延が発生した場合、ホスト／ネットワーク／ストレージに細分化して色分けして表示してくれるので、問題点を明確に判断できる。自社でもNimble Storageを利用しているが、障害が発生し、ケースがオープンした際は、状況把握、障害切り分けがすでに終わってい

るため非常に解決が速かった」とネットワークの長谷部係長は説明する。

AIが問題を予測し、
プロアクティブ対応が可能

InfoSightの特徴は、業界初の“AIレコメンデーションエンジン”にある。ストレージからアプリケーションに至るまでの問題を予測することで、ユーザーのプロアクティブな対応を可能にする。

「パフォーマンスや容量に関する詳細な状況の確認はもちろん、AIレコメンデーションエンジンによって、過去のストレージの利用状況やナレッジを踏まえた予測ができる。これにより予兆段階でいち早くトラブルを検知することが可能になる。また、容量やパフォーマンスの増強が必要になったりする場合も、それを事前にレコメンドしてくれるので、常に最適な投資が行える」と高野エバンジェリスト。

内部サポートでも、一次（L1）、二次（L2）対応に相当する部分は、InfoSightが済ませているため、人の対応はL3の高度なエンジニアが担当分だけでよい。これにより他の環境なら数日は掛かっていたであろう対応時間が、InfoSightによる実績値ベースで平均42分で済むという。

また、最近の複数システムが統合された環境では、データを提供するストレージとそれを処理するアプリケーションデザインとのギャップから、業務の中断や遅延が生じるという状況が多く発生しがちだ。この状況に対してもInfoSightは、ストレージと仮想マシン間に存在するパフォーマンスの問題を解析して、その原因は何かといったポイントまでドリルダウンして、システム部門に提示してくれる。

99.9999%の高可用性を保証する
SLAを標準で提供

InfoSightと製品自体が備える高い信頼性に裏打ちされ、HPEでは、HPE Nimble Storage全製品に対して高可用性を保証するSLA契約を標準で提供している。99.9999%という年間ダウンタイムで約31秒を超えた場合、保守料金の返還などを行うというものだ。「HPE Nimble Storageは理論値をベースに



日本ヒューレット・パッカード (HPE)
ハイブリッドIT事業統括
データプラットフォーム統括本部
エバンジェリスト
高野 勝氏



ネットワーク
SI技術本部
ストレージ基盤技術部
ストレージソリューション1課
係長
長谷部浩生氏

主張している他社と異なり、InfoSightなどの活用によって実績値で99.999928%という高可用性を達成している。ここまでコミットできるベンダーは他にないと評価している」とネットワークの長谷部係長は強調する。

HPEでは、InfoSightを他のHPE製品にも順次適用を拡大していく計画だ。すでに上位向けストレージ製品の「HPE 3PAR」については17年12月に対応を終えている。

「HCI製品の『HPE SimpliVity』もこの数か月のうちには対応していく予定だ。さらに、サーバー製品の『HPE ProLiant』への対応も計画している。一連の製品に適用を拡大することより、システム全体を横串にした障害や問題の事前予知が可能になる。その先には、自律型データセンターの実現を視野に入れている」と高野エバンジェリストは展望を語る。

高パフォーマンスを実現する
独自の特許技術「CASL」

HPE Nimble Storageは高性能も大きな特徴だ。次世代テクノロジーのStorage Class Memory (SCM) とNVMeの活用を前提に設計されており、加えて独自の特許技術「CASL (Cache Accelerated Sequential Layout)」を搭載。CASLでは、圧縮しながら効率的にディスクに書き込み、フラッシュメモリ (SSD) をリードキャッシュとして利用することで高いパフォーマンスを実現する。ランダムアクセ

スをなくすことで、ハイブリッドストレージでもオールフラッシュと同等の性能を達成できる。ディスク当たりのIOPSは、他社製品との比較で10倍以上になるという。

HPE Nimble Storageは、オールフラッシュアレイの「AFシリーズ」とハイブリッドフラッシュアレイの「HFシリーズ」(CSシリーズの後継)の2シリーズをラインアップする。

「AFシリーズは、データベース系のIOPSを要求するワークロードへの適用や高い信頼性を求められる業務での採用が多い。一方のHFシリーズは、VDI環境への適応をはじめコストパフォーマンスの高さを評価しての採用が多い。台数ではこちらが中心になり、必要なパフォーマンスが予測しやすいワークロードでの用途に向いている。いずれにしても細かなシステム設計が不要で、製品選択は必要なIOPSと容量で選ぶだけで済むので、とてもシンプルだ」とネットワークの長谷部係長。

また、AFシリーズは業界最高レベルの容量効率を実現していることの裏付けとして、「HPE Store More Guarantee」プログラムを提供する。同プログラムは、他社のオールフラッシュストレージを上回るテラバイトあたりの有効容量を実現できない場合は、その差額分をディスカウントで対応するというものだ。

「HPE Nimble Storageは、最小限のオーバーヘッドや重複排除などの優れたデータ削減機能によりデータを効率よく保存できる。ユーザーにとって、重複排除率や圧縮率といったカタログ値のデータ削減率は真の価値ではない。実際に支払った金額に対する実効容量こそが重要だ」と高野エバンジェリストは話す。

一方、HFシリーズでは、従来の圧縮機能に加えて新たにインライン重複排除機能をサ

HPE Nimble Storage



Predictive
予測分析

Cloud Ready
クラウド対応

Timeless
永続性

Unified Flash
フラッシュ統合



業界最高レベルの
容量効率

Store More
Guarantee



将来にわたり
投資を担保

ストレージ
クラスメモリと
NVMe対応



大幅な
価格性能向上

最大3倍の
価格性能向上



最も効率のよい
ハイブリッドアレイ

インライン重複排除

HPEブランドで問い合わせが急増
仮想化パッケージの販売も検討する

このように、ストレージ製品として非常に魅力の高いHPE Nimble Storageだが、以前は知る人ぞ知る製品だったという。

「その状況を大きく変えたのが、17年11月に正式にHPE傘下になったこと。ブランド力が大幅に向上した。以前であれば、自らユーザーやパートナーにアプローチしなければならなかったが、HPEブランドになってからは、問い合わせが一気に数倍に増えた。一方、われわれがHPEに問い合わせる際にも、レスポンスが早く親身になって対応してくれる」とネットワークの長谷部係長。

ユーザーからの評価として多いのが、パフォーマンスと導入や設定の容易さだ。ネットワークではユーザーやパートナー向けにハンズオンなどを開催しているが、設定方法や認定資格対策もまず1回の受講でマスターできるという。

「すでに、HPE Nimble Storageについては『忍ブルくん』をキャラクターに販売キャンペーンを実施している。今後はさらに、HPE ProLiantとNimble、VMwareを加えた仮想化パッケージ製品の販売も検討している。これに当社の構築サービスを加えて提供していきたい」と長谷部係長は抱負を語る。

編集長の眼

IoT、ビッグデータ、AIは、いまやバズワードの域を越え、現実のITソリューションに落とし込み、社会システムやビジネス基盤に実装していくフェーズに入っている。Nimble StorageのInfoSightは、ハードウェアメーカーがこれを取り組んで実践した事例であり、彼らのビジネスを支える基盤としてしっかり機能し、成果を出しているのが興味深い。InfoSightで収集・分析したデータを根拠に稼働率99.9999%というSLAを標準で提供し、これを下回った場合は保守料金の返還などを行うという考え方は、ク

ラウドネイティブ時代のハードウェアビジネスといえるのかもしれない。VADとして多くのハードウェアを深く研究してきたネットワークだからこそ、その価値に対する評価は高い。同社からは「ProLiantとNimble、VMwareを加えた仮想化パッケージ製品の販売も検討している」とのコメントも聞かれたが、まさにVADの面目躍如。ハードウェアだけでなく、UI/UX製品に関するノウハウ、技術力も強みにしていることが、NimbleやInfoSightの価値をさらに高める商材づくりにつながる。

DCからエッジまで 全方向のネットワーク ソリューションを実現

徹底

分析

ネットワークは開拓者だ！

本多編集長が
今、いちばん気になる

ネットワーク
ソリューション



米ヒューレット・パッカード（当時）が無線LANアクセスポイントを手がける米アルパネットワークス（Aruba）を買収し、事業統合を完了してから2年以上が経過した。現在は、ヒューレット・パッカードからエンタープライズビジネスを継承したヒューレット・パッカード・エンタープライズ（HPE）におけるネットワークソリューションの主力ブランド「HPE Aruba」として、ビジネス規模を急拡大している。ネットワーク製品の取り扱い経験が豊富なVADであるネットワールドも、Arubaのオンリーワンの価値には太鼓判を押す。

HPE入りで大企業での採用や大規模案件が増えた

イーサネットスイッチが主力だったHPEのネットワーク製品ポートフォリオにAruba製品が加わったことにより、HPEは有線・無線を問わず全方位をカバーするネットワークソリューションをラインアップすることに成功した。一方、買収された側のArubaにしても、HPEに統合されたことで、大きくビジネスを飛躍させる結果になった。

日本ヒューレット・パッカード（HPE）の天野重敏・ARUBA事業統括本部パートナー技術部兼西日本技術部部長は、「旧Arubaはベンチャー的で、技術は最新のものを追求していたし、新しいもの好きのお客様が多かった。一方、HPEは大企業でサーバーを中心にグローバルでもトップレベルの実績があり、顧客にも大企業が多い。HPEに統合されたことでAruba製品も大企業での採用実績や大規模案件が増え、顧客層は間違いなく拡大している」と手応えを語る。

ディストリビューターからみても、エンタープライズIT市場でArubaのプレゼンスが一段上がったことは歓迎すべきことだという。ネットワールドの河相登士光・SI技術本部インフラソリューション技術部部長は次のように説明する。「HPEによる買収前から無線の世界でトップベンダーのシスコシステムズ（シスコ）に対抗できるのはArubaしか残っていないという状況ではあったが、技術で勝ってもビジネスで負けるというようなケースは少なくなかった。シスコを買ってあげば安心というお客様がまだまだ日本には多い。しかし、HPEのバックボーンを得て、Arubaも安心できると考えるユーザーが一気に増えた。シスコと同じ土俵で真っ向勝負できるようになってきて、現実的な選択肢になったことは大きなポイントだ」。

「ClearPass」で二律背反のニーズに応える

業務の現場では、スマートフォンやタブレット端末などモバイルデバイスの活用がスタンダードになり、一人で複数台のデバイスを

同時に使うことも珍しくなくなった。さらにIoTの広がりによって、より多様なデバイスが企業内のネットワークにつながるようになってきた。従来のオフィス内のネットワーク制御では、デバイスの種類や用途ごとにVLANを用意するのが一般的だった。しかし、この方式では現在でさえオフィス内に溢れているVLANがさらに飛躍的に増えることになり、管理負荷も比例して増大する。新しいデバイスが増えるたびに、VLAN設計の見直しもネットワーク全体が必要になるため、もはや現在のネットワーク活用のニーズに対応できなくなっているのだ。

天野部長は、「未知のデバイス、新しいデバイスがどんどんつながる世界になってきて、企業ネットワークのセキュリティや接続管理は非常に複雑になっている。一方でユーザー企業側は反対によりシンプルに使いたい、できればネットワークなんて触りたくないと思っている。Arubaの基本的な思想は、ネットワークの中をVLANなどで細かく分けて複雑な制御に対応する従来型の管理ではなく、ネットワークの入り口、つまりエッジ側のスイッチやアクセスポイント（AP）で上手に制御することで二律背反のニーズを満たしていこうというもの」と説明する。

それを可能にする中核製品が、「ClearPass」だ。認証とロール適用をつかさどるポリシーサーバーで、「誰がどんなデバイスでどんなアプリケーションをどのように使っているのか」までを把握・分析したうえで、アクセス先の制限・制御や隔離、切断、QoS、ポリシーレーティング、VLAN割り当てなどをスイッチやAPに指示する。有線・無線を問わず、制御ポイントを集約することが可能になる。ネットワールドの河相部長は、「ClearPassは非常にすぐれた認証基盤製品であるし、これをAruba以外の製品でやろうとすると、たくさんのベンダーの製品を組み合わせないと実現できず、サポートが難しくなるという課題があった。ここをクリアできるのは企業向けネットワークとして非常に重要だ」と評価する。

さらに、セキュリティリスクの分析は、ClearPassが直接実行するものだけでなく、100社を超えるサードパーティー製のセキュリ



日本ヒューレット・パッカード（HPE）
ARUBA事業統括本部
パートナー技術部兼西日本技術部
部長
天野重敏氏



ネットワールド
SI技術本部
インフラソリューション技術部
部長
河相登士光氏

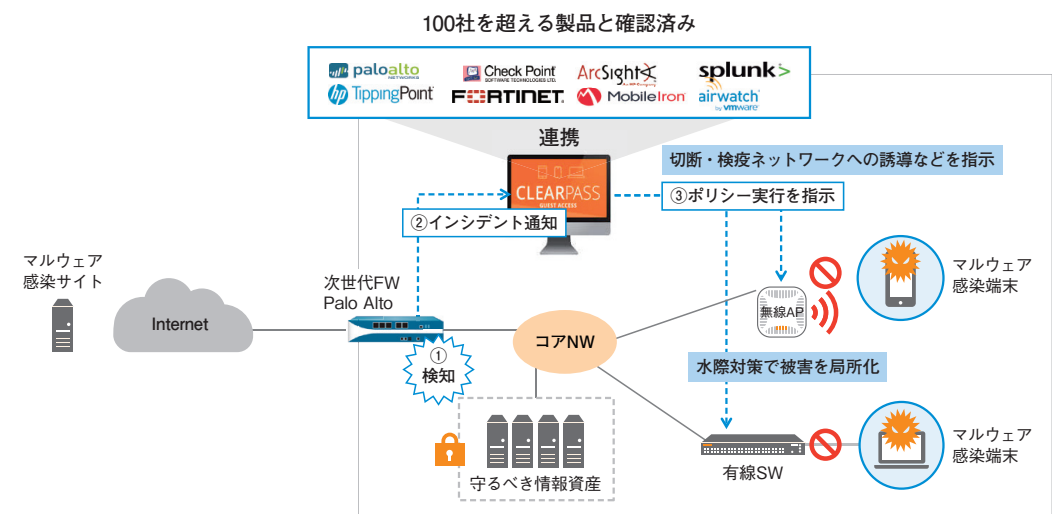
ティ製品ともAPIで連携する。天野部長によれば、「セキュリティリスクもさまざまなものがあるので、ベスト・オブ・ブリード戦略を探っている」という。「例えばファイアウォール専門メーカー、エンドポイントセキュリティ専門メーカーなど、強みが明確な他ベンダー製品をClearPassと連携させ、そこで脅威を見つけてくれたらこちらに通知してもらい、ClearPass自身のプロファイリングと合わせて必要なセキュリティポリシーをエッジ側に指示する。ClearPassをフォーカルポイント（注視点）と位置づけて、ネットワークの入り口で制御するという考え方を実現していると考えてもらえるとうわかりやすい」。

ClearPassを核としたベスト・オブ・ブリード戦略は、ネットワールドにとってもメリットがある。「最近注目されているエンドポイントセキュリティ製品のなかでも、特に注目されているEDRのCarbon BlackやモバイルセキュリティのVMware、Citrix、IBM、ファイアウォールのFortinet、CheckPointなど多くのベンダーのセキュリティ製品を扱っているので、お客様のニーズに合わせて多彩なソリューションを提案できる」と河相部長は強調する。

単一アーキテクチャで競合と差異化

また、Arubaのネットワーク管理ソリューションも、同社のポートフォリオのなかで重要な位置づけがなされている。Aruba製品

ベスト・オブ・ブリードの実現（各分野で最良の製品を選択し連携）



としては、クラウド型の管理サービスである「Central」とオンプレミス型の統合型管理ソリューション「AirWave」などをラインアップしている。ネットワークのクラウド型管理ソリューションではシスコの「Meraki」が有名だが、このライバルに対して天野部長は「MerakiはクラウドサービスとAP、ライセンスなどが最初から一つに紐づいてしまっていて、クラウドサービスがなければAPも動かない。しかしAruba製品はAP単体で動くとともに最小限の管理ができるし、管理機能を追加する場合はクラウド、オンプレとも単一のアーキテクチャで製品を提供しているので、既存のネットワーク環境をまったく触らずに管理形態だけ変えるということが簡単にできる」とAruba製品の柔軟性を活かしたCentralのメリットを強調する。

天野部長が強調した「単一のアーキテクチャ」であることは、ネットワーク管理ソリューションだけでなく、Arubaのビジネス戦略そのものについて、最大の競合であるシスコとの違いを端的に表している部分だという。天野部長は、次のように語る。「Aruba製品は、有線スイッチ、無線AP、そしてそれをコントロールするクラウド／オンプレミスのソリューション、ポリシーサーバーという基本的には四つの要素しかない。これらが単一のアーキ

テクチャで統合的に動いて「入り口での制御」を実現し、LAN側情報によるWANの制御も問題ない。ネットワークの中のことは気にする必要がなく、既存の機器をそのまま使っていただける。一方で、シスコは無線なら無線、有線なら有線、WANならWANのシステムが必要で、それらを無理やり統合して使っているような状況。ネットワークの中もすべての装置をVLANベースで細かく分けてセキュリティ対策をしているようにみえる。これではコストも高くなるし、導入も運用も大変になってしまう」。

ネットワールドは、データセンター（DC）ソリューションビジネスを主力としており、VMwareの仮想化基盤として「DCネットワークを得意としている」（河相部長）という。これに加えてAruba製品を扱うことで、エッジからDCまで、全ての領域をカバーするエンタープライズ向けネットワークビジネスを展開することができるようになった。河相部長は、「エッジをコントロールするソリューションがラインアップとして整い、DC系ビジネスと相乗効果で成長させていくことが可能になったと考えている」と手応えを語る。Arubaとしても、「当社が志向するベスト・オブ・ブリードの世界を実現してくれるパートナー」（天野部長）として期待は大きい。

編集長の眼

HPEの天野重敏・ARUBA事業統括本部パートナー技術部兼西日本技術部部長も言及していたとおり、「ネットワークは難しい、触らなくても済む範囲をできるだけ拡大してほしい」というのは多くのユーザー企業にとって偽らざる本音だろう。一方で、働き方改革の流れは多くの企業にモバイルデバイスなどをフル活用した柔軟な働き方への対応を促している。VLANに頼ることなく、エッジ側の制御だけでマイクロセグメンテーション（企業内ネットワークをできるだけ

小さい範囲でセグメント化することで脅威の拡散を防ぐ考え方）を実現するArubaの製品群は、利便性とセキュリティの両立が求められる現在の市場ニーズの“芯”を捉えている。

仮想化技術のノウハウが豊富なネットワールドとのパートナーシップも強力だ。エッジからDCまで、ワンストップでマイクロセグメンテーションを実現することの意義は大きい。日本の働き方改革をさらに加速させる先導役として力を発揮してほしい。

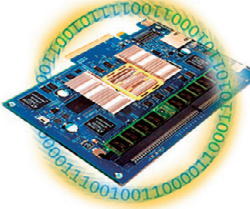
日本ヒューレット・パッカード

サービス紹介

ハイパー・コンバージド・インフラストラクチャー

HPE SimpliVity

ビジネスに必要な不可欠なあらゆる機能をビルトインで提供するHCI



HPE SimpliVityはハードウェアアクセラレーターにより重複排除を含むストレージ機能を実装することで優れたデータ効率性、データ保護、更にシンプルな管理を実現する次世代HCIです。標準でバックアップ機能を有し、vCenterに統合された管理コンソールからシンプルな運用を実現できます。

- 対象企業規模 企業規模問わず
- 主な業種 一般企業、官公庁、教育機関
- 特徴
 - ・重複排除、データ圧縮により高いデータ効率を実現。
 - ・少ないオーバーヘッドで効率的に仮想マシンを集約可能。

- ・管理はvCenterから。仮想マシンのバックアップ、リストアが可能。
- ・最小構成2ノードから
- 導入実績 国内でも多数導入実績あり

仕 様 外形寸法：88mm (H) ×446mm (W) ×680mm (D) 12.5kg (最大構成時)

メーカー 日本ヒューレット・パッカード **WEB** <https://www.hpe.com/jp/ja/integrated-systems/simplivity.html>

製品名	HPE SimpliVity 380 Gen10				
モデル	Extra Small All Flash Value/Enterprise Storage構成	Small All Flash Value/Enterprise Storage構成	Medium All Flash Value/Enterprise Storage構成	Large All Flash Value/Enterprise Storage構成	Extra Large All Flash Value Storage構成
CPU	インテル® Xeon® プロセッサー (Skylake) 8 ～ 44 コア 1Pもしくは2P				
メモリ	144 ～ 1,536GB				
ディスク	960GB SSD×5	1.92TB SSD×5	1.92TB SSD×9	1.92TB SSD×12	3.84TB SSD×12
有効ストレージ容量	3 ～ 6TB	6 ～ 12TB	12 ～ 25TB	20 ～ 40TB	40 ～ 80TB
RAID	RADIO 5		RADIO 6		
ネットワーク接続	オンボード：Ethernet1Gb 2ポート331i ネットワークアダプター Flexible LOM：Ethernet10Gb 2ポート533FLR-T ネットワークアダプター Ethernet 10Gb 2ポート534FLR-SFP+ ネットワークアダプター FlexFabric 10Gb 4ポート536FLR-T コンバージド ネットワークアダプター または Ethernet 10/25Gb 2ポート640FLR-SFP28 ネットワークアダプター または Ethernet スロットオプション：その他構成に合わせてポート追加可能				
電源接続	デュアル800W/1600W 100/240 VAC@50/60Hz (オートセンシング)				
物理寸法	8.73×67.94×44.54cm (高さ×奥行×幅)				
重量	11.7kg		12kg	12.5kg	

*有効容量は環境と実際の重複排除および圧縮率によって異なります。上記の容量は、標準的なプライマリストレージのユースケースで見られる圧縮および重複排除率に基づいた数値となっています。

HPE Nimble Storage ハイブリッドフラッシュアレイ

SSDとHDDを最適活用し低コストで高パフォーマンスを実現！



評価機
貸し出し中

性能をデバイス本数に依存しない独自アーキテクチャCASLにより、省スペースと低消費電力、低遅延を実現します。またクラウドベースの監視ツールであるInfoSightの予測分析により、99.9999%以上の稼働実績を達成。最新機種では、従来機種の性能レベルを維持しながら、インライン重複排除機能を標準搭載します。

- 対象企業規模 企業規模問わず
- 主な業種 全業種
- 特徴
 - ・シンプルな管理
 - ・フラッシュの最適活用によるコストパフォーマンス

- ・トリプルパリティRAIDによる高い可用性
- ・99.9999%以上の稼働実績
- ・ライセンス不要
- ・SSD、HDDは独立して拡張可能
- ・初期構成と設定は2時間以内

HPE Nimble Storage オールフラッシュアレイ

HPEだから実現するオールフラッシュなのに大容量！



クラウドベースの監視ツールであるInfoSightの予測分析による99.9999%以上の稼働と、オールフラッシュによる高速性を実現。最新モデルでは、ストレージ・クラス・メモリーとNVMeに対応。また最小12本からスタートできるQuarterモデルが登場し、スモールスタートを実現します。

- 対象企業規模 企業規模問わず
- 主な業種 全業種
- 特徴
 - ・シンプルな管理
 - ・トリプルパリティRAIDによる高い可用性

- ・99.9999%以上の稼働実績
- ・ライセンス不要
- ・初期構成と設定は2時間以内
- ・CSシリーズ (ハイブリッドモデル) とのスケールアウトやレプリケーション構成も可能

Aruba アクセスポイント

セキュアなエッジネットワークを実現する802.11ac Wave2高品質無線LAN



評価機
貸し出し中

業界随一のAP間の負荷分散機能、ClientMatchを搭載
常に端末を最適なAPに接続し高品質、安定した無線環境の実現

- 対象企業規模 企業規模問わず
- 主な業種 全企業
- 特長
 - ・802.11ac wave2対応 (最新規格)

- ・AP内にL4・L7ファイアウォール内蔵、アプリ可視化、QoS、通信最適化実現
- ・仮想コントローラー運用からコントローラー運用まで柔軟対応

Aruba スイッチ

モバイルファーストに対応したL2/L3スイッチ



評価機
貸し出し中

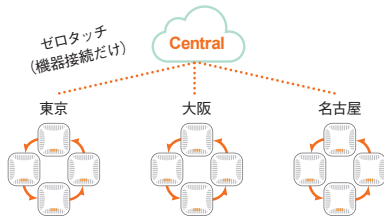
L2からL3スイッチまで豊富なラインアップ
有線と無線の統合管理を実現し、セキュアなネットワークの実現

- 対象企業規模 企業規模問わず
- 主な業種 全業種
- 特長
 - ・エッジ～コア迄フルラインアップ

- ・モバイル1st実現のAruba OS
- ・スタック構成／管理、冗長構成可
- ・ライセンス不要のシンプル構成

Aruba Central お手軽＋安定＋高機能クラウドWi-Fi

有線/無線の全ネットワークをクラウドから一括管理を実現



<アルバだけの主な機能>
クラウド管理でもAP間負荷分散可
クラウド管理をやってもAP動作可
既設APもクラウド管理に移行可

Aruba ClearPass 統合認証基盤

全ての端末へ適切なネットワーク アクセス認証と制御の実現



100社以上の製品と連携
多層防御を実現

- ・Carbon Black
- ・Windows Server
- ・PostgreSQL
- ・Check Point
- ・Fortinet
- ・Palo Alto Networks
- ・Splunk・ArcSight
- ・ServiceNow
- ・MobileIron・Citrix
- ・AirWatch by VMware



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11-15 住友商事神保町ビル

株式会社 ネットワールド TEL. 03-5210-5081 <http://www.networld.co.jp/>